

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770105332		
法人名	シャローム株式会社		
事業所名	シャローム大庭寺グループホームノア		
サービス種別	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府堺市南区大庭寺249-1		
自己評価作成日	平成29年度10月5日	評価結果市町村受理日	平成29年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成29年度10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人らしさを尊重しありのままを受け入れ丁寧に寄り添う理念のもと、それぞれの利用者の生きてこられた歴史を知りそのらしさを発揮できるように接する。利用者が落ち着いた生活をおくることができるように支援する。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「その人らしさを尊重しありのままを受け入れ丁寧に寄り添います」という事業所理念について、事業所内研修や向上会議で継続的に立ち戻る機会を持ち、職員間で理解と共有を深め、支援の中で実践できるように取り組んでいる。重度化が進んでいる現状であるが、利用者一人ひとりがその人らしく穏やかに過ごせるように、個々の介護計画に沿った支援を行い丁寧に記録を残している。毎食手作りの調理を継続し、家庭的な雰囲気の中で食事が楽しめるように取り組んでいる。計画にもとづいた事業所内研修・定期的な会議等で職員の資質向上と連携に努め、職員の定着がよく、利用者との馴染みの関係を構築し細やかな支援が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本年度より、地域との交流を会社を挙げて方針としています。事業所理念をフロアに掲示し、理念をもとにケアすること、問題に直面した時、理念に照らし合わせ、また理念に立ち返り解決しています。	法人理念・事業所の理念を明文化し、法人理念に地域密着型サービスの意義を明記している。本年度から、法人のガーデン計画として、特に地域密着型での取り組みに注力する方針である。「その人らしさを尊重しありのままを受け入れ丁寧に寄り添います」という事業所の理念をフロアに掲示し、事業所内研修に継続的に盛り込み理解を深めている。向上会議等で利用者個々の支援について検討する際には、理念に立ち戻って「その人らしさ」をもとに話し合い、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入していませんが(自治会に加入した場合自治会活動や役職等を行うのは大変ではないかとの自治会より配慮)地域の祭り・盆踊りの際には声を掛けていただき参加させていただく。	運営推進会議を通して、自治会・長寿会・民生委員との交流を持ち、地域の祭りの際はだんじりの立ち寄りもある。散歩・買い物・ドライブ等で、地域に出かける機会も設けている。定期的に、調理補助や音楽レクリエーションのボランティアの来訪があり、併設のデイサービスと合同でイベントのボランティアの来訪もある。南区グループホーム連合での認知症啓発活動、地域支援交流会での取り組み・AEDの設置など、事業所の機能を活かした地域貢献に取り組んでいる。また、運営推進会議に消防署の救急隊員を招き、救急要請や救急業務等についての説明や質疑応答を行い、参加者を通して地域にも情報提供できるように計画している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	堺市南区グループホーム連合の活動として認知症啓発活動を行う。			

シャローム大庭寺グループホームノア

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)		<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて、現状抱える課題を報告しグループホームとしてケアのあり方について話し合う。</p>	<p>利用者・家族・自治会長・長寿会会長・民生委員・地域包括支援センター職員・知見者として他事業所の管理者を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。会議では利用者の状況、事業所の状況・活動等を報告し、また、「グループホームとは」を継続的なトピックとして毎回様々な角度から情報提供し理解を深めている。参加者からの情報・意見・提案等を、サービスや運営に反映している。全家族に開催案内を郵送し、開催後には議事録を郵送して内容を報告している。また、議事録ファイルを設置し、公開している。</p>	
5	(4)		<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>南区グループホーム連絡会の際に地域包括との情報共有、生活支援課と入居者の相談を通して密に連絡する。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、事業所の状況や取り組みを伝え情報交換している。福祉協議会や地域包括支援センターから参加がある南区グループホーム連絡会に参加し情報共有している。「すこやかフェア」の開催でも協働している。福祉的支援を要する利用者には、区の生活支援課の職員と連携し支援を行っている。</p>	
6	(5)		<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の研修を行い、職員の理解を深めると共に、現状身体拘束せざるを得ない状況について毎月家族様に報告し同意書をいただく。</p>	<p>年間研修計画をもとに、毎年、「身体拘束」についての研修を実施し職員の理解を深めている。言葉での拘束についても注意を促し、意識向上に努めている。防犯上、玄関は施錠しているが、利用者が閉塞感を感じることがないように、職員が随時対応している。</p>	
7			<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について研修を行い理解を深める。</p>		

シャローム大庭寺グループホームノア

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の利用者成年後見制度利用される。後見人と連絡をしよりよい生活を送れるよう努める		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行う、日ごろにおいても利用料やケアについても可能な限りご理解いただけるよう説明をおこなう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様への連絡を行い、ご意見あれば伺う。利用者の苦情・意見については管理者が直接伺い聴き取りする。	面会時・電話・手紙等で利用者個々の近況を報告し、家族が意見・要望を出しやすいように努めている。主に管理者が窓口となって対応し、申し送りノートで職員間で共有している。意見・要望は内容的には個人的なものであり、個別に迅速な対応に努めている。運営推進会議に利用者・家族の参加があり、また、全家族に開催案内を郵送して参加を募り、外部者にも意見を表せる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、向上会議として会議を開催し意見交換を行う。	毎月、グループホーム向上会議・支所会議を開催し、職員が意見・提案を出し合って話し合い、管理者も参加して把握している。管理者は、日頃から職員と話しやすい関係づくりに努め、また、必要時には個人面談を行い、随時意見を聴く機会を設けている。会議に取締役や、時には法人代表者の出席もあり、職員の意見・提案等を把握している。法人代表者の巡回訪問時には、職員が打ち解けて直接話す機会もある。業務分担・業務改善・物品購入等、職員の意見を採り入れサービスや運営に反映している。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得の時などは助成金・祝い金制度がある、入職3ヶ月で面談を設け困りごと・やりがいを把握している。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設ない研修実施・外部研修の案内をしている		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市南区グループホーム連合に参加し、南区にある具グループホームとの交流・活動を行う。年に2回の堺市全体会議ではグループホームとしての課題を学ぶ研修を開催している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の見学やグループホームとしてケアのあり方、管理者としての考えを説明させていただく一方、その中で本人様(主に家族様)からの不安・要望にお答えしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の見学やグループホームとしてケアのあり方、管理者としての考えを説明させていただく一方、その中で家族様からの不安・要望にお答えしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の在宅ケアの状況を確認し連携し在宅でのケアに近づけたケアに努める。		

シャローム大庭寺グループホームノア

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者は共にグループホームノアの 一員として家族のように接することに努めて いる。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族様の来所時や電話で利用者の近況を 報告し家族様の考えを知り一方で施設での よりよい生活が送れるよう努める。本人・家 族様それぞれの話を聴き関係の維持や修 復に努める。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の送付や時には代筆など関係性が途 切れないようにし、来所の際には施設として 場所や日時の設定・お迎えをしている。	馴染みの人や場所について入居時に把握し た情報は「面談表」に記載し、入居後に把握 した内容は「ケース記録」に記録して共有して いる。家族・親戚・友人・神父など、馴染みの 人の面会時にはゆっくり過ごせるように配慮 している。電話の取次ぎ、手紙への返事の代 筆など、関係継続の支援を行っている。自宅 近くの地域の祭り見学・幼少期に住んでいた 地域の神社巡りなど、馴染みの場所へは、個 別に外出支援を行っている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	フロアでのレクリエーションなど部屋で孤立 しないように努める。一方入居者同士の衝 突等は必ずスタッフが間に入り関係性が悪 化しないようにしている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去退去された方の家族からの差し入れが 継続している。また社内の他施設へ転居さ れた方についても訪問と家族様への連絡を 継続している		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の申し送りや記録から希望や意向の把握に努めるほか、直接本人と話し思いや意向を聞きそれに沿う形を本人と話し合う。	入居時の思いや意向は「面談表」の「本人・家族の希望」の欄に記載し、日々の支援の中で把握した内容は「ケース記録」に記載し共有している。内容に応じて、計画作成担当者が「ケース記録」に入力し、介護計画に反映している。思いや意向の把握が困難な利用者については、生活パターンから推察したり、表情・反応・動作から汲み取る等、本人の視点に立って検討するように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や本人 これまで利用していたサービスなど本院の生活歴等の情報を集めGHでより良い生活がおくれるようにスタッフと情報を共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフからの申し送りや記録より現状を把握し一日の過ごし方に変化があれば本人に直接確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い各職員からの情報を集約する一方、家族様へ伝えより良い生活を送れるよう介護契約書を作成している。	「面談表」で情報収集し、サービス担当者会議で検討して施設サービス計画書を作成している。計画書は都度の確認がしやすいようにファイリングされ、サービス内容は具体的で共有しやすく記載されている。サービスの実施状況は「計画実施票」・「ケース記録」・各種チェック表に記録し、計画と実施の整合性は「計画実施表」で明確にしている。毎月の向上会議で利用者個々の状況について検討し、計画変更の必要性の有無も確認している。定期的には6ヶ月に1回、「モニタリング表」での評価、「課題分析票」での再アセスメント、サービス担当者会議での検討を行い、施設サービス計画書の見直しを行っている。職員間で共有し、PDCAサイクルにもとづいた取り組みが継続されている。	

シャローム大庭寺グループホームノア

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや向上会議にて入居者それぞれの状況を職員間で共有する、その際問題や課題について話し合う。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況にあわせた部門との連携を図る。また施設内の設備が不十分な際には社内の施設において支援する		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域の情報を集め活用できるように努めている		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な受診の際には家族様へ連絡し、家族様希望の医師への通院を行う。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の来所時には、利用者の状況や心情について報告を行う。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院連携シートにより生活情報をいち早く病院関係者へ届ける。また利用者の面会を通して情報交換を行い、退院時のカンファレンス、施設でのケアについて検討する。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについて説明する。契約時お元気な方の家族様には重度化・終末期については健康状態を見ながらその都度具体的に説明することを伝えている。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、協力医療機関の内科・歯科の往診と訪問看護が受けられる体制がある。皮膚科・眼科・精神科等の通院での受診については、家族の同意を得て職員が通院支援を行っている。同行した職員が医師に状態や状況を直接説明し、受診結果や事業所での対応について説明を受け連携を図っている。往診については、医師への伝達事項を往診前に書面で伝達している。往診・通院の受診結果は、入力した記録を「医療記録ファイル」に入れると共に、「ケース記録」にも記載して職員間で情報共有している。また、内容に応じて家族にも報告している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間で研修計画を立て、研修を行う。随時利用者の様態にあわせ急変の対応を想定し研修する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時には事業所近隣の住宅にその旨を伝える。	年に2回、併設のデイサービスと合同で、利用者も参加して、昼間想定消防訓練を実施している。事業所内研修で、「災害対応研修」を実施し、ハザードマップ・避難場所・避難経路について周知を図っている。近隣の職員からの緊急連絡網を作成し、緊急時対応に備えている。水・食料等の備蓄を行っている。	夜間の災害時にも利用者が避難できる方法を全職員が身につけるため、夜間想定訓練の実施が望まれる。運営推進会議等を活用し、地域との協力関係を構築していくことを期待する。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社理念とグループホーム理念を周知・理解し一人の人間としていくことの大切さを伝えている。	利用者尊重の方針を法人理念・事業所理念に明文化し、研修やカンファレンスで共有し実践に取り組んでいる。事業所内研修の「接遇」「認知症対応」研修の中で人格やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学び、意識向上に努めている。個人の記録ファイル類は施錠できる書庫に保管し、入職時に守秘義務の誓約書を交わして、個人情報 の適切な管理を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安全を配慮した上で本人の意志を尊重し自己決定できるように支援し、難しい場合は説明の上了解を得ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合優先のケアにならないように、声をかけ了解をいただきながらその人のペースに合わせ生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き先・季節に応じて最適な服装を利用者と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備・配膳など食事の支度をする、一方嚥下や食事方法などその方にあった方法を提案し安全に食事をしていただいている。	献立・食材の搬入を受け、毎食事業所内で手作りの食事を提供している。利用者の希望・嗜好・状況に応じて、献立をアレンジして提供することもある。体調や嚥下状態に応じて、食事形態など個別の対応も行っている。季節感や見た目にもこだわり、食事が楽しめるように取り組んでいる。外食・喫茶・テイクアウト等、変化が楽しめる機会も設けている。	

シャローム大庭寺グループホームノア

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄・水分チェックシートを用い支援する		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて歯科に相談、歯科の指導のもと口腔ケアを行う。		
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を用い排泄のリズムをつかみ個別の誘導を行い支援する。	排泄記録をもとに排泄状況や排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を大切に支援している。排泄の自立からベット上でのおむつ交換まで、利用者個々の状態に応じた排泄介助を行っている。毎月の向上会議で介助方法や排泄用品等について検討し、現状に即した支援に取り組んでいる。ホットタオルを使用し、快適性や衛生面に配慮している。声掛け時や処理時の尊厳やプライバシーへの配慮については、職員間で周知徹底している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録の活用し水分を多めにとってもらったり歩行など運動を促す。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者別の基本の曜日を定めるが、入浴の希望があれば入浴を行う。	基本的には週2回、利用者別の曜日を決めて入浴支援しているが、体調・状況・希望に応じて柔軟に対応している。ADLの低下で重度化してる中、入浴が困難な利用者には介助者の人数を増やし安全に入浴できるように対応している。異性介助を嫌がる利用者には同性介助で対応し、入浴に拒否がある場合は声かけやタイミングを工夫して円滑に入浴できるように支援している。	

シャローム大庭寺グループホームノア

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の昼寝を含め快適な睡眠ができるように努める		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個別の薬情報の確認。看護師・薬剤師に副作用について確認し申し送りにて情報を共有する		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできることを見出す、レクリエーションを通し楽しみや喜びのある生活を支援する		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の希望については可能な限り支援する、また家族様の希望にも添えるように家族様協力の下外出を支援している。	気候のいい時期には、近隣への散歩や日用品の買い物等に出かけている。花見・コスモス・花火・紅葉等、季節に合わせた外出支援も行っている。重度化に伴い外出が困難な状況になっているが、個別の外出支援や、夏祭り・クリスマス会・誕生会等事業所内で楽しめる機会作りに取り組んでいる。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	事業所にて管理を行う一方、家族様の同意の上利用者にて金銭管理を行う。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望毎支援する		

シャローム大庭寺グループホームノア

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るまた室内の温度調整など利用者の要望に応じて調整を行う	見通しの良いゆったりとした共用空間に、テーブル席の他、多様なソファ・椅子を配置し、思い思いの場所でくつろげるようにしている。季節の花や行事の写真等を飾り、居心地よく過ごせる環境に配慮している。一角の台所から調理の音や匂いが感じられ、家庭的な雰囲気を感じられる。湿度・温度管理、セラ水の加湿等により、健康管理にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの椅子やソファなど共有空間内に多様の椅子を配置する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、利用者の愛用の品を持ってきていただけるようにする。また家族と相談し居室内の電化製品を購入している。	ベッド・たんす等自宅で使い慣れた家具や、写真・ぬいぐるみ・人形・化粧道具など好みの物の持ち込みを勧め、落ち着いて居心地よく過ごせるように支援している。持ち込みが少ない利用者には、法人内の事業所間で協力して、必要な家具や道具などを調達している。利用者の状況に応じて、家具の配置や物品を調整し、安全に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のADLに合わせて安全に利用できるようにしている。		